

# 琉球大学学術リポジトリ

西表島から採集された日本初記録の有藻性イシサンゴ  
*Nemenezophyllia turbida* Hodgson & Ross, 1982

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学資料館 (風樹館) 公開日: 2020-12-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 横地, 洋之, Yokochi, Hiroyuki メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/47428">http://hdl.handle.net/20.500.12000/47428</a>



## 西表島から採集された日本初記録の有藻性イシサンゴ *Nemenzophyllia turbida* Hodgson & Ross, 1982

横地洋之

〒424-8610 静岡県静岡市清水区折戸 3-20-1 東海大学 海洋学部 水産学科

**要旨**. これまでフィリピン, インドネシア, マレーシアおよびパプアニューギニアから知られていた *Nemenzophyllia turbida* Hodgson & Ross, 1982 が, 西表島網取湾内の礁斜面下端, 水深 40 m の砂泥底から得られた. 本種は, 当初チョウジガイ科 Caryophylliidae とされたが, 現在は Plerogyridae に属する 1 属 1 種の有藻性イシサンゴである. 本報告は標本に基づく日本初および北限の記録であり, 本種の標準和名としてハナビラサンゴを提唱する.

### はじめに

*Nemenzophyllia turbida* Hodgson & Ross, 1982 は, ボホール島の北にある Caubian 島 (フィリピン) から採集された標本に基づき記載された 1 属 1 種の有藻性イシサンゴである (Hodgson & Ross 1982). 属名はフィリピンでのサンゴ分類学の先駆者である Nemenzo 博士に, 種小名は遮蔽的で濁った環境に生息することに由来する. 国際自然保護連合 (IUCN) のレッドリストでは, 本種は既知の生息域全体にわたって希な種であり, しかも観賞用の採集圧が高いことなどから, 危急 (VU) に指定されている (Turak et al. 2008). 筆者は, 西表島西部の網取にある東海大学海洋研究所西表分室 (当時: 現, 東海大学沖縄地域研究センター網取施設) に勤務していた際に, 沖縄県の特別採捕許可のもと機会あるごとに網取湾とその周辺海域から造礁サンゴ類を収集していた. それらの標本中に, これまで我が国では生息が知られていなかった本種が含まれていたため報告する. 本報告に用いた 3 標本は, 琉球大学博物館風樹館 (RUMF), 千葉県立博物館分館海の博物館 (CMNH), および東海大学海洋研究所 (IORD) に収蔵されている.

### 分類

Phylum CNIDARIA 刺胞動物門  
Class ANTHOZOA 花虫綱  
Subclass HEXACORALLIA 六方サンゴ亜綱  
Order SCLERACTINIA イシサンゴ目  
Family Plerogyridae Rowlett, 2020 ミズタマサンゴ科 (新称)

Genus *Nemenzophyllia* Hodgson & Ross, 1982

ハナビラサンゴ属 (新称)

*Nemenzophyllia turbida* Hodgson & Ross, 1982

ハナビラサンゴ (新称)

(図 1-2)

*Nemenzophyllia turbida* Hodgson & Ross, 1982: 171-175, figs. 4 & 5; Veron, 2000: 84-85, figs. 1-4 & an unnumbered photo; Hylleberg & Cedhagen, 2015: 279-280, 2 figs.

**検討標本**. 3 標本 (RUMF-ZG-4406, CMNH-ZG 09756, IORD-C-92003), 西表島網取湾中央部東岸, 礁斜面下端, 水深 40 m, 礫混じりの砂泥底, 1992 年 5 月 5 日, 横地洋之採集.

**形態**. 標本の形態的特徴は Hodgson & Ross (1982) の記載とほぼ一致する. サンゴ体は厚さ 6 ~ 12 mm, 上端の長さ数 cm から 10 数 cm の扇状に広がるフラベロイド型ないしフラベロメアンドロイド型の骨格が分岐し, 高さは 10 ~ 20 cm 程度である (図 1A). 骨格上面に一列に並ぶ個体の境界は不明瞭で, 中央には薄い軸柱が壁状に連なる (図 1B). 群体の湾曲部や終端のやや膨らんだ部分では, 隔壁は 3 次まで認められる (図 1C). 1 次隔壁は軸柱に達し, 上端は莖壁端から 4 mm ほど突出するが, 3 次隔壁は短く軸柱に達せず, ほとんど突出しない. 2 次隔壁は両者の中間的である. 骨格側面には, 隔壁に対応した肋がサンゴ体基部から上端に向かって放射状に発達する (図 1D).

近縁のミズタマサンゴ属 *Plerogyra* との共通点として, 昼間に囊胞を広げていることがあげられる (Benzoni et al. 2014) (図 2). 生時では, 本種の外観は *Plerogyra discus* Veron & Fenner, 2000 に酷似し, 両種の区別は困難と思われる. しかし, 本種の骨格には上述した中央を走る薄膜状の軸柱があるのに対して, 後者はこれを欠き, 隔壁端が急激に落ち込む深い谷となっている点で明瞭に区別できる (Veron 2000 参照).

**分布**. 本種はフィリピンのボホール島北に位置するカウピアン島から最初に記録され (Hodgson & Ross 1982), 後にインドネシア, マレーシア, パプアニューギニアなどの熱

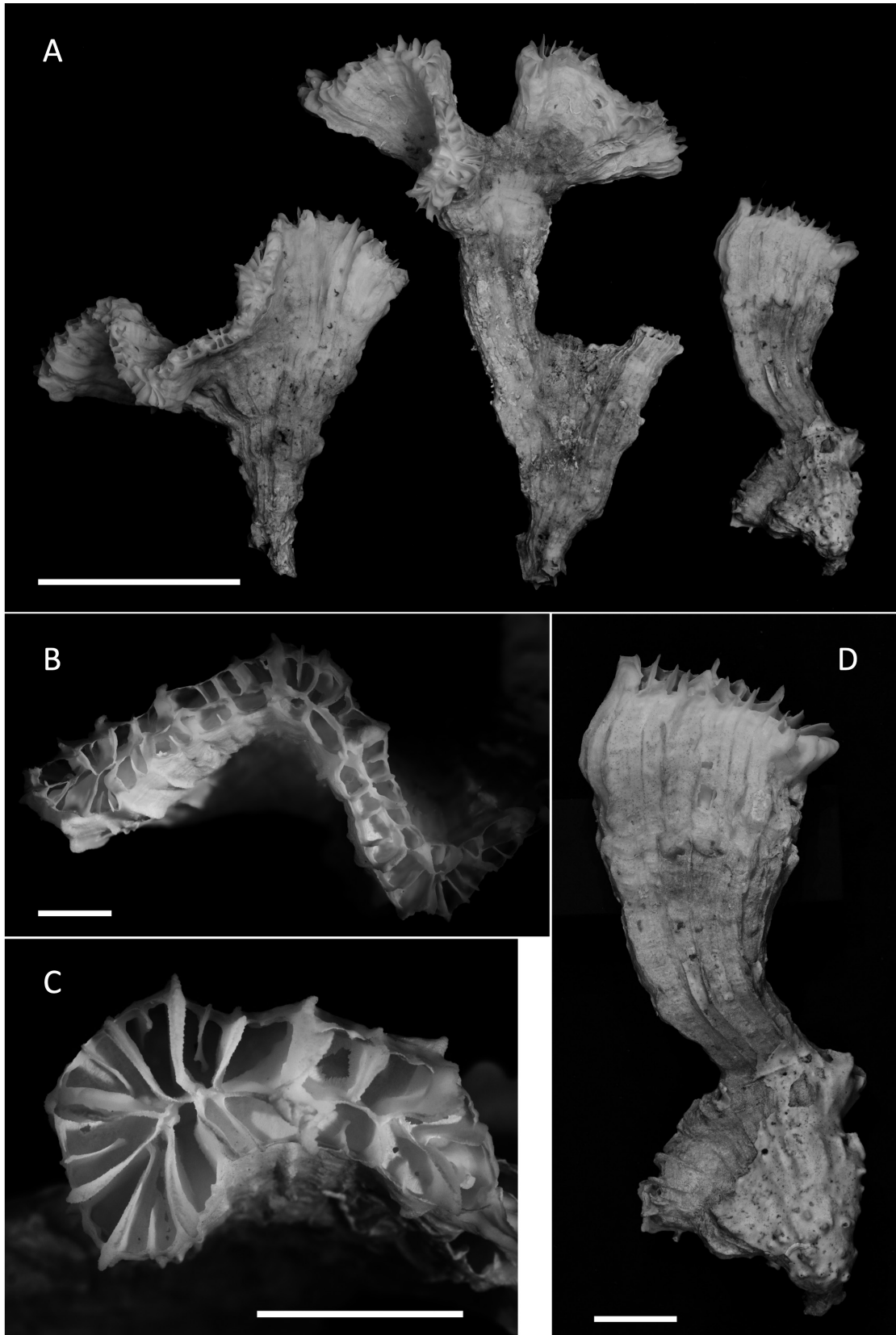


図1. *Nemzophyllia turbida* の骨格標本. A, 左から CMNH-ZG 09756, RUMF-ZG-4406, IORD-C-92003; B, 骨格上面 (CMNH-ZG 09756); C, 群体終端部 (RUMF-ZG-4406); D, 骨格側面 (IORD-C-92003). スケール: A は 50 mm, B-D は 10 mm.

Fig. 1. *Nemzophyllia turbida* from Iriomote Island. A, CMNH-ZG 09756 (left), RUMF-ZG-4406 (center), IORD-C-92003 (right); B, upper view (CMNH-ZG 09756); C, detail of an end of valley (RUMF-ZG-4406); D, lateral view (IORD-C-92003). Scale bars: A = 50 mm, B-D = 10 mm.



図 2. *Nemenzophyllia turbida* の生時の様子, 西表島網取湾, 水深 40 m, 1992 年 5 月 5 日 . A, 生息状況 ; B, 軟体部を広げた様子のクローズアップ, スケールは 50 mm.  
Fig. 2. In situ photos of *Nemenzophyllia turbida* at 40 m depth in Amitori Bay, Iriomote Island. A, habitat; B, close-up of the polyps showing fleshy mantle vesicles, scale bar = 50 mm.

[報告] 横地: ハナビラサンゴ (新称) の西表島からの報告 .

帯域で生息が確認されている (Borel Best et al. 1989; Veron & Hodgson 1989; Benzoni et al. 2014; Waheed et al. 2015; Veron et al. 2016). したがって、本報告は本種の北限記録となる。

**採集記録**．発見時、本種は数メートルの範囲にまばらに点在するように生息していた (図 2A). これらは砂泥底中に半ば埋もれた死骨格で繋がっており、ひとまとまりの群体であった可能性がある。

なお、日本造礁サンゴ分類研究会によって 2014 年に網取湾で行われた中深度を対象とした広範な調査 (横地ら 2019) では再発見されておらず、本海域では希な種である。

**標準和名**．*Nemzophyllia turbida* は生時には軟体部が大きく広がり花びらの様相を呈するため (図 2B), 本種の標準和名に「ハナビラサンゴ」を、本属 *Nemzophyllia* の標準和名には「ハナビラサンゴ属」を提唱する。標準和名の基準となる標本には RUMF-ZG-4406 を指定する。また、本種が所属する Plerogyridae には、「ミズタマサンゴ科」を提唱する。

**備考**．本種は、Hodgson & Ross (1982) によってチョウジガイ科 Caryophylliidae の新属新種として記載された。その後、Veron & Hodgson (1989) では泥底に生息することに起因する極端な生態型 (ecomorph) としてミズタマサンゴ属 *Plerogyra* に編入されたが、Veron (2000) ではハナサンゴ科 Euphylliidae の *Nemzophyllia* に戻された 1 属 1 種の有藻性イシサンゴで、WoRMS では最近まで所属科不明 (incertae sedis) とされてきた。Benzoni et al. (2014) は、骨格と生時のマクロな形態および分子に基づく系統解析から、タバサンゴ属 *Blastomussa*、ミズタマサンゴ属 *Plerogyra*、オオハナサンゴ属 *Physogyra* と共に新しい科の創設の必要性を指摘しつつも、そのためにはミクロな形態の追加情報が必要としていたが、その後 Rowlett (2020) がこれら 4 属からなる Plerogyridae を創設し、WoRMS でも採用されるに至った (Hoeksema & Cairns 2020)。

## 謝辞

本報告に当たって琉球大学の成瀬貫博士と査読者には有益な助言をいただいた。琉球大学博物館風樹館と千葉県立中央博物館分館 海の博物館への標本収蔵に当たっては、それぞれ成瀬博士と主任上席研究員 立川浩之氏に便宜を図っていただいた。記して感謝します。

## 引用文献

Benzoni, F., R. Arrigoni, Z. Waheed, F. Stefani &

B.W. Hoeksema, 2014. Phylogenetic relationships and revision of the genus *Blastomussa* (Cnidaria: Anthozoa: Scleractinia) with description of a new species. *Raffles Bulletin of Zoology*, 62: 358–378.

Borel Best, M., B.W. Hoeksema, W. Moka, H. Moll, Suharsono & I. Nyoman Sutarna, 1989. Recent Scleractinian coral species collected during the Snellius-II expedition in Eastern Indonesia. *Netherlands Journal of Sea Research*, 23 (2): 107–115.

Hodgson, G. & M.A. Ross, 1982. Unreported scleractinian corals from the Philippines. *Proceedings of the Fourth International Coral Reef Symposium, Manila, 1981*, 2: 171–175.

Hoeksema, B.W. & S. Cairns, 2020. World List of Scleractinia. Plerogyridae Rowlett, 2020. Accessed through: World Register of Marine Species at: [http://www.marinespecies.org/aphia.php?p=taxdetails&id=1464206#attributes\\_on\\_2020-11-05](http://www.marinespecies.org/aphia.php?p=taxdetails&id=1464206#attributes_on_2020-11-05)

Hylleberg, J. & T. Cedhagen, 2015. Indo-Pacific Corals identified and described by Hans Ditlev. National Science Museum Ministry of Science and Technology, Thailand.

Rowlett, J., 2020. Indo-Pacific Corals. Rowlett (self-published).

Turak, E., C. Sheppard & E. Wood, 2008. *Nemzophyllia turbida*. The IUCN Red List of Threatened Species 2008: e.T133219A3637817. <http://dx.doi.org/10.2305/IUCN.UK.2008.RLTS.T133219A3637817.en>

Veron, J.E.N. 2000. Corals of the World. Volume 2. Australian Institute of Marine Science, Townsville.

Veron, J.E.N & G. Hodgson, 1989. Annotated checklist of the hermatypic corals of the Philippines. *Pacific Science*, 43 (3): 234–287.

Veron J.E.N., M.G. Stafford-Smith, E. Turak & L.M. DeVantier, 2016. Corals of the World. Accessed 11 Sep 2020, version 0.01. [http://www.coralsoftheworld.org/species\\_factsheets/species\\_factsheet\\_summary/nemzophyllia-turbida/?version=0.01](http://www.coralsoftheworld.org/species_factsheets/species_factsheet_summary/nemzophyllia-turbida/?version=0.01)

Waheed, Z., H.G.J. van Mil, M.A. Syed Hussein, R. Jumin, B. Golam Ahad & B.W. Hoeksema, 2015. Coral Reefs at the Northernmost Tip of Borneo: An Assessment of Scleractinian Species Richness Patterns and Benthic Reef Assemblages. *PLoS ONE* 10 (12): e0146006. doi:10.1371/journal.pone.0146006

横地洋之・下池和幸・梶原健次・野村恵一・北

野裕子・松本尚・島田剛・杉原薫・立川浩之・山本広美・座安佑奈・木村匡・河野裕美, 2019. 西表島の造礁サンゴ類. 東海大学沖縄地域研究センター所報 西表島研究 2018, 36-69.

**First record of the zooxanthellate scleractinian coral, *Nemenezophyllia turbida* Hodgson & Ross, 1982 from Iriomote Island, Ryukyu Islands, Japan**

**Hiroyuki Yokochi**

Department of Fisheries, School of Marine Science and Technology, Tokai University, 3-20-1 Orido, Shimizu-ku, Shizuoka 424-8610, Japan

**Abstract.** The zooxanthellate scleractinian coral, *Nemenezophyllia turbida* Hodgson & Ross, 1982, previously recorded from the Philippines, Indonesia, Malaysia and Papua New Guinea was collected from a sandy-mud bottom at a depth of 40 m at the lower end of a reef slope in Amitori Bay, Iriomote Island, Ryukyu Islands, Japan. This species was originally assigned to the family Caryophylliidae, but currently belongs to the family Plerogyridae. This report represents the first record from the Japanese waters and the northernmost record of the species. A new standard Japanese name, “Hanabira-sango”, is proposed for this species.

投稿日 : 2020 年 9 月 28 日  
受理日 : 2020 年 11 月 5 日  
発行日 : 2020 年 12 月 4 日